

県内の患者数

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	↗ 6	0	百日咳	↗ 1	0
RSウイルス感染症	→ 0	0	ヘルパンギーナ	↘ 69	124
咽頭結膜熱	↘ 36	40	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	↘ 31	35
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↘ 21	28	急性出血性結膜炎	→ 0	0
感染性胃腸炎	↘ 186	225	流行性角結膜炎(はやり目)	↘ 34	35
水痘	↘ 23	25	細菌性髄膜炎	→ 0	0
手足口病	↘ 8	13	無菌性髄膜炎	→ 0	0
伝染性紅斑(りんご病)	↘ 0	3	マイコプラズマ肺炎	↗ 5	2
突発性発しん	↘ 34	39	クラミジア肺炎	→ 0	0

報告が多い感染症

- 感染性胃腸炎
- ヘルパンギーナ
- 咽頭結膜熱

●感染性胃腸炎は、報告数 186件(前週報告数 225件)と減少。地区別では、有明、人吉、山鹿、宇城に多く報告がみられます。年齢別では、1歳の33件を最多に幅広い年齢層からの報告です。

●ヘルパンギーナは、報告数 69件(前週報告数 124件)と減少。地区別では、宇城、天草、水俣に多く報告がみられます。年齢別では、1歳の23件を最多に10～1以下からの報告です。

●咽頭結膜熱は、報告数 36件(前週報告数 40件)と減少。地区別では、菊池、熊本、天草に多く報告がみられます。年齢別では、3歳の7件を最多に10～14歳以下からの報告です。

◆◆◆保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

保健所名	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎
熊本市保健所	3		20	8	39	7	4		14		10	6		32				4
山鹿保健所					10						1		*	*				
菊池保健所			9	1	11		1		5		10							
阿蘇保健所													*	*				
御船保健所					2								*	*				
八代保健所				2	17	11			1		11	1		2				
水俣保健所				2	6				2		6		*	*				
人吉保健所				3	16						1		*	*				
有明保健所			2	1	63	2	1		7	1	3	1						
宇城保健所	3				15		1		1		12	6						
天草保健所			5	4	7	3	1		4		15	17						1
計	6	0	36	21	186	23	8	0	34	1	69	31	0	34	0	0	5	0

◆◆◆年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

インフルエンザ定点	合計	0～5ヶ月	6～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上
インフルエンザ	6			1	1			1		1						1				1	
小児科定点年齢	合計	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳以上						
RSウイルス感染症	0																				
咽頭結膜熱	36		3	3	1	7	5	5	6	1	3	1	1								
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	21			2	1	4	3	4		1	5		1								
感染性胃腸炎	186	6	17	33	18	22	16	12	8	8	7	9	14	2	14						
水痘	23		3	5	7	2	2	3		1											
手足口病	8			3	2	1	1								1						
伝染性紅斑	0																				
突発性発しん	34	2	18	11	3																
百日咳	1			1																	
ヘルパンギーナ	69	2	13	23	19	4	2	2	1	1			2								
流行性耳下腺炎	31		1	2	4	2	9	2	3	5	1				2						
眼科定点年齢区分	合計	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	
急性出血性結膜炎	0																				
流行性角結膜炎	34	1	1			3	2	2	4	1		2		1		12	2	2	1		
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上				
細菌性髄膜炎	0																				
無菌性髄膜炎	0																				
マイコプラズマ肺炎	5		1	2					1	1											
クラミジア肺炎	0																				

**大きな流行が発生
又は継続しつつある地域**

- 感染性胃腸炎：有明、人吉、山鹿、宇城
- ヘルパンギーナ：宇城、天草、水俣
- 咽頭結膜熱：菊池、熊本、天草

風疹は予防接種で予防可能!

【風しんは、予防接種で予防可能な感染症です】

風しんは、春から初夏にかけて多く発生しますが、今年は8月以降も流行が続いています。風しんウイルスは、飛沫によって感染し、14～21日の潜伏期間の後、発熱、発疹、リンパ節が腫れるといった症状が現れます。妊娠初期に風しんに感染すると、出生児に先天性の心疾患、難聴、白内障などの症状を起こす先天性風しん症候群を発生することがあります。

風しんは、予防接種で予防可能な感染症です。定期予防接種は、第1期(生後12～24月)、第2期(小学校就学前1年間)に加え、今年度までの時限措置として、第3期(中学1年生時)、第4期(高校3年生相当時)に実施されていますので、対象となる方は必ず予防接種を受けましょう。

また、定期予防接種の対象とならない方でも、子どもと接する機会が多い職業の方や家族に妊婦さんがいる方、妊娠の希望あるいはその可能性が高い女性は、予防接種を受けることをご検討下さい。ただし、妊娠期間中など、予防接種を受けられない時期がありますので、医療機関にご相談ください。